

イタリアンライグラスを活用しましょう

邑久郡長船町 牧野 勉

水田地帯における飼料作物と云えば、紫雲英に優るものは無いとまで重要視され栽培されてきたのは一昔前のこと。刈取期間が短くて再生せず、乾燥に不適當な紫雲英に代わるイタリアンライグラスは、紫雲英の短所を改善し得る飼料作物であることは、すでに大方の畜産農家の認識されていることと思えます。

私の地帯は昭和29年当時改良課専門技術員黒住技師の指導によって、県下で初めてグループでこれを栽培しました。今日では飼料作物の主体として、生草はもとより乾草、サイレージ用として栽培し、刈取、乾燥、跡地水稻の栽培方式の研究に専念しておりますが、「草の週間」にあたり研究グループのイタリアンライグラスの栽培方式を紹介し、これの活用をおすすめする次第です。

1、イタリアンライグラスの特性

長所としては耐寒性であり、冬季利用も可能で、再生力旺盛、また刈取期間長く乾燥容易で、栽培しやすい作物である。

短所としては肥料の吸収量が大であり、跡地耕起が困難な点である。

肥料の点に付いては、昭和36年度施肥適量試験を改良課専門技術員栗山技師の指導のもとに実施し、結論を得ているので、近く成績結果について発表され、施肥基準がお示し頂ける事と思う。イタリアンライグラス跡地水稻に付いても2カ年にわたり試作し、近く栽培改善方式が結論付けられることと思う。

2、栽培事例

(1) 水田裏作としての栽培方式

(イ) 水稻中播（イタリアン単播の場合）

播種時期＝落水直後水田のしまった時（県南部では10月上旬）、10アール当り7リットルを播種する。播種前日に風呂湯浸を行い、播種し易い程度に水を切り、風のある昼間播種

すれば、立毛中でも種子が地表に落ちて発芽率が良い。栽培の重点は刈取直後の施肥であり、早期（年内）に一応充分な発育をさせて置くと、冬期間でも充分生育刈取が出来得るので、刈取直後成るべく早くNPKを施用し、1、2回牛尿撒布（倍量の水に稀釈）を早害防止と併せて行う。其の後の施肥は刈取1週間前にN肥料を施肥すれば、良質の生草が得られると共に、再生力が盛んになる。そして刈取1週間後に牛尿又は科学肥料の追肥が必要である。これを毎回の刈取に繰返し施肥すれば、2月より6月まで、地上60cmを刈取適期として、3～4回の刈取が可能であり、10アール当り6～7,000kg内外の青刈を生産できる。とくに乾草用として利用をおすすめする。

(ロ) 水稻中播（レンゲ・イタリアン混播の場合）

レンゲ刈取期の延長と、再生、跡地耕起難の問題解決策として、レンゲとイタリアンの混播方式をとる。播種期はイタリアン単播と同様（南部では10月上旬）、播種量はイタリアン4リットル、レンゲ4リットルを、稲立毛中へ撒播し、特に水稻刈取直後Pに重点を置き、Nはイタリアンの発芽生育共に優勢な場合は中止、反対の場合は少量施肥する。各々特徴を生かして、収穫時にレンゲ60%、イタリアン40%の生草が得られるのが最適である。なおこの程度ならばイタリアンの再生力は旺盛であって、5月中旬第2回目は充分刈取得られる。第1回刈レンゲ、イタリアンはサイレージ用とし、第2回刈イタリアンは乾草用に、なお田植直前までには第3回刈も可能である。特に2回刈取後は乾燥しやすい点を採用したい。

岡山畜産便り 1961.09

そのうえ混播跡地の耕起は幾分しやすくなる。

(ハ) 水稲中播（イタリアン・ベッチの条混播の場合）

イタリアン跡地水稲栽培に、部分耕起法を行う目的で、10月上旬並木植水稲の立毛中に、イタリアンとベッチを交互に条播する。そして4月～6月の間、2～3回刈を行ない、刈取後ベッチ跡地のみ耕起して田植を行い、イタリアン跡地を不耕起のままとする方法は、耕起難と労力調整上1つの方法なので研究中である。

(ニ) 水稲早、中性種跡並びに、晩稲倒伏時の対策としての水稲刈取後の耕起播法

此の方法は水稲刈取直後、早期に堆肥N、P、Kを施肥。全耕地均らしをしてイタリアン6リットル、エン麦（品種は前進を使用のこと）10リットルを撒播し、ごく浅く（竹ボーキ又は平馬鍬を引いて）混和し、ドラム缶で鎮圧を行う。発芽後速効性Nを施肥して置くと、年内にエン麦が主に刈り得られ、以後はイタリアンのみ再生し、施肥はイタリアン単播に準じて行えば、12月～6月まで5～6回刈が行なえる。これは主に生草給与用としておすすめしたい。特に跡地耕起のたやすい点、初期生育が盛んで年内刈取ができ、再生力が旺盛で刈取回数が多く、多収である点に注目すべきである。

(2) 畑地専用飼料圃としての栽培方式

(イ) イタリアン単播の場合

（昭和36年改良課栗山専門技術員からの御指導によって行った施肥適量試験成績中より）

9月6日、前作スーダングラス刈取後、耕起播種（条播）した場合、10月下旬より6月までに、60cm伸長を目標に7回刈を行ない、最高15,000kgを収穫し得た成績からして、イタリアンも早期播種すれば年内にかなり収穫を得ること及び、刈取回数が多いことは、給与

の計画上有望である。

（詳細は別の機に改良課より発表あることと思う。）

(ロ) イタリアンエン麦混播の場合

耕起地均らし後条間60cmの播溝を作り、条播覆土の後、全面にイタリアンの撒播を行い、竹ボーキで表面へ浅く混和しておく。発芽後の管理はイタリアン単播と同じで12月に第1回としてエン麦を刈り、以後イタリアンを4～5回刈り得る。青刈給与用として最適である。

(ハ) 家畜用カブとイタリアンの混作の場合

家畜用カブを9月上旬播種し、10月上旬家畜用カブの中耕終了後、イタリアンを全面撒播しておくで発芽する。12月家畜用のカブの葉刈を行ない家畜に給与すれば、1つはカブラの冬枯防止となり、1つはイタリアンの生育促進に役立つ。そして3月上旬までに、家畜用カブを毎日収穫給与すれば、直ちにイタリアン畑となり、3月下旬より刈取が始められる。特に年間飼料圃の立体利用法と云うか、土地利用度の高い方式としておすすめしたい管理その他に付いては、前記各方式により実施されたい。

以上浅い体験から、数種の利用方式を紹介致しましたが、イタリアンライグラス程利用度の高い作物はないと思います。いずれこれ以外の活用方法もあることと存じますが、今後も皆様と共に此の研究に精進したい事を念じつつ、筆を止めることに致します。
「終り」

岡山畜産便り 1961.09

車輪型トラクター作業機能力

馬力	作業の種類	使用作業機	作業能力 反/時	備考
HP 10	堆肥撒布起	マニユア・スプレッダー (450Kg載み)	2.3~2.6	圃場に堆積したものを撒布 耕深21Cm " " 2回掛け 施肥装置付き トウモロコシ用 マメ類用
	耕	ポットム・ブラウ 12"×1	1~1.5	
	"	" " 12"×1 (双用)	1.3~1.9	
	砕均播	デイスク・ハロー 16×16	2.5~3.5	
	"	ツース・ハロー 25本爪×3	4~5	
	"	ドスリル 10×7	3~3.5	
HP 37	中耕除草	コーン・プランター 1条用	2~2.5	2回掛け 3畦用 4~4.5 5m巾 4.5フィート
	"	カルチベータ 1畦用	2~2.6	
	"	" " 3畦用	4~4.5	
	薬剤撒布	スプレヤー 5m巾	4~6	
	草撒布	モーター	3.5~4	
	"	"	"	
HP 37	堆肥撒布起	マニユア・スプレッダー (750Kg載み)	9~12	撒布時間のみ 耕深21Cm " 21Cm " 25Cm " 30Cm 2回掛け 砕土作業を主とする 耕深35Cm
	耕	ポットム・ブラウ 12"×2	2~2.5	
	"	" " 12×3	2.5~3	
	"	" " 14×2	2.7~3.2	
	"	" " 16×1	1.8~2	
	"	デイスク・ブラウ 26×3	3.5~4	
	砕均播	デイスク・ハロー 18×24	4~6	
	土破砕	ツース・ハロー 25本爪×3	6~8	
	心畦播	ロータリー 130Cm巾	2.5~4	
	立種	サソイラー 直装一連	1~2	
	"	リッシャー 3畦用	4~6	
	"	ドリル 14×7	4~5	
中耕除草	カルチベータ 3畦用	4~6		
"	カウチベータ 71本爪	7~10		
薬剤撒布	スプレヤー 6,3m巾	5~12		
草撒布	モーター 7フィート	5~7		
集	サイ 6フィート	5~6		